

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、6月より昼食前の体操の後入居者様、職員全員で復唱している。その人がその人らしく楽しく生活していくように、職員間で支援している。	事業所独自の理念を作成しており、玄関・共有スペースに掲示し、理念の実践ができるよう毎朝の引き継ぎ時に理念を確認するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流とし、茶話会を継続し、ボランティアの方々2団体が参加された。	地域にも広報誌を定期的に回覧し、情報を発信しています。また、事業所の茶話会には地域の方にも参加してもらったり、地域の敬老会やさいの神にも参加するなど、地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の奉仕作業(環境整備・草刈)に参加している地域新聞を活用してボランティアの参加をよびかけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域の方、家族の参加により、グループホーム内ホールの和室で、入居者様の様子を見ながら会議をおこなっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、区長やご家族代表、民生委員や市の担当者から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様や家族の相談や困難事例等は市高齢福祉課、または包括職員の方に相談し助言を頂いている	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、身体拘束について正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組む努力している。	身体拘束を行わない方針が徹底されており、言葉の遣い方についても管理者が気が付いた時には指導するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束に関する理解をより深める為にも、定期的に事業所にて研修の機会を設けられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の研修に参加して、職員定例会議で他の職員に報告して各自、自覚を持って取り組んでいる。	虐待防止については外部研修に参加し、職員会議で周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	虐待防止に関する理解をより深める為にも、定期的に事業所にて研修の機会を設けられることを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の関する制度を利用している方がいない、今後は研修会に参加し活用できるように職員の資質の向上を目指している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書を確認して頂いている、契約時には、再度読み合わせを行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーターホールに意見箱を設置している、また面会時にグループホームでの様子を、伝えている。 緊急の場合は電話で連絡し、意見、要望を聞き参考にしている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所のバーベキュー大会や茶話会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員定例会にて職員の意見や要望を聞き、翌月の会議にて確認を行っている。	毎月の職員会議の場で職員の意見や要望を確認しており、運営者にも会議内容の報告を行っています。また、個人面談も年に2回実施し、職員からの意見を吸い上げられるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から話し合いの場を持つように心掛けている また個人面談を随時行い意見や要望を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、研修に参加できるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの研修行いサービスの質の向上を図るよう取り組みをおこなっていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で本人の生活歴など情報を把握し本人の要望やまた新しい環境での不安を受け止め、慣れて頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族から話しを聞く機会を作り、要望等に沿った支援ができるよう関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に何が一番大事なことであるか見極め、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と一緒に何ができるか考え、できるだけ本人の意に沿った暮らしを共にできるような関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連絡を密に取り、遠方の家族には電話や手紙等で本人の状況を知って頂き、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に事業所広報を毎月送付しているほか、状態の変化があった場合はお手紙も作成して送付しており、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・夕食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	事業所の外出イベントの際には家族にも声掛けし、より協力関係の構築に努められることを期待します。また、個別のお手紙の送付に関しても必要時だけでなく、定期的に送付されるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方達が面会に来られたときは、居室でゆっくりくつろいでもらう雰囲気作りをしたり、馴染みの場所へ出かけたり、これまでの関係がとぎれないような支援を行っている	馴染みの美容室へ出かけたり、ご利用者と一緒にスーパーへ買い物に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立しないようにまた会話しやすく支援を行っている。助け合ったり、お互いに支えあえるような関係をつくれるように、利用者の関係を把握している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にするために、面会に行ったり家族から状況を聞いたりして、これまでの関係を大切にしながら時には相談に応じる時もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の意向の把握に努めている、意思疎通の困難な方でも、やさしい日頃のサインを見逃さずに対応し職員定例会議などで話し合い、検討している	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は申し送りノートに記載され、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時、自宅を訪問し、ご家族や本人から聞くようにしている。また一人ひとりの生活歴を確認し、ご家族から情報を得るようにしている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。	職員にもフェイスシートの内容を周知する機会を設け、すべての職員が内容を理解されるようにされることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを理解し日々の変化や行動を観察している、ご本人のできることを見つけ、日課として取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意見や思いを伺い、職員会議にて検討している。その人が、自分らしく生活できるような介護計画を作るように努めている	サービス担当者会議には職員も参加し、モニタリングも担当職員が行うなど、職員と協力してケアプランを作成しています。	ケアプランに関する評価が職員によって違う見解がされているところがありましたので、見解が統一されるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに食事量、体重、排泄チェック、バイタルを記録して日々の状態を把握している。また個人記録には、本人の言葉を書き入れて、日々の変化や気づきを、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の、その時の状態に合わせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーに買い物に出かけたり、地域の行事に参加している。また緑豊かな近隣に散歩に出かけている。地域新聞を発行し、ボランティアの協力を、呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族、本人の希望を聞き往診にきて頂いている。受診の場合は家族に依頼して、その結果を把握できるような関係を築き、異変時はDRに連絡し指示を仰いでいる	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となり、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ事業所から情報提供を行い、医師との状況の確認が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、気づきや情報を的確に看護師に報告しアドバイスを受けている。個々の利用者の日々の変化に気をつけ異変時はスムーズに受診できるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときや退院時は、病院関係者と情報交換や、相談に努め、本人が安心して過ごせるように支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ、看取りはないが今後は、本人の状態によって家族と話し合いながら方針を定め、主治医と連携していく。	契約段階でご家族の意向を確認しており、ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え支援していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の訓練を定期的に行い、実践力を身につけるようにしていく	毎年1回は消防署職員より普通救命講習を受けており、必要時には看護師からも指導を受ける等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練を2回行い、地域の消防団の方に参加を呼びかけている。部分訓練を毎月行い避難経路、避難食の確認、初期消火等の訓練を行っている	毎年、日中・夜間を想定した避難訓練を行っており、ご利用者別の避難誘導の方法も検討する等、災害時に適切な対応ができるようにされています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で把握し、状況に応じ居室などで落ち着いて話しが出来るように努めている。 他職員と共有し対応の徹底に努めている。	接遇の外部研修に参加し、言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても同意を得ています。	事業所に来て頂いているボランティアの方にも情報の保護に関して周知されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人々に合わせた声かけを行い、耳が遠い人には、筆談を使って希望を聞き、いくつかの選択を分かり易く提示し自己決定できるように、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人々のペースや体調を配慮し、出来るだけ本人の希望に添った対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向に沿って決めているが、季節に合った洋服や声かけで変化が楽しめるよう支援している。要望があれば理髪店から出張して頂いて本人の希望に添うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土料理や行事食を取り入れ調理・盛り付け等を利用者と一緒に行い楽しく食事が出来るように雰囲気大切にしている	ご利用者の能力に応じて調理や味付け、後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもきゅうりやなすなどの野菜をつかっており、ご利用者の楽しみとなっています。ご利用者と一緒にお外食に出かけたり、おやつ作りを行うこともありました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し夏場など、脱水にならないようにこまめに水分確保の声かけに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、見守りながら不足な所は職員が介助を行っている。毎月2回歯科衛生士による口腔指導を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを付け、尿意の曖昧な利用者には時間を、見計らって誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレも各居室にあり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面では繊維質の多い食材やヨーグルトなどを取り入れたり散歩や家事等で体を動かす機会を多く持ち便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を聞き、また体の状態を確認して入浴を決めている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動量を多くして、夜ゆっくり、休めるように支援している、眠れないときは添い寝をしたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作ったり、薬の説明書をコピーして、職員が内容を把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるように仕事をお願いしている。また感謝の気持ちを伝えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、天気の良い日はできるだけ外に出ていけるように支援している、散歩、買い物ドライブ等に出かけ、気分転換を図るようにしている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、散歩に出かけたりもしています。また季節に合わせたお花見や菜の花見学などのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が管理しているが、家族の協力を得て、小額のお金を持っている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて電話や手紙を出せるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に行事参加の思い出の写真が貼られたり季節の花を飾ることで季節感を、取り入れ居心地よく過ごせるように工夫している。	リビングは広々として開放感があり、和室もあり、ソファも置かれてあり、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるスペースとなっています。事業所に飾られている写真や装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビの前にテーブル、ソファを置いて、交流の場を作れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの品を居室に置くことで、安心感を得たり居心地よく過ごせるように配慮している。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた手すり設置や、居住環境が適しているかを見直し安全確保ができ自立した生活を送れるように工夫している。		